

H28 気仙沼市 夏休み学習支援ボランティア

県内小中学校が夏休みに入り、本学からも多くの学生が学習支援ボランティアとして各学校の学習活動に参加しました。この学習支援ボランティアには、本学学生だけではなく全国各地から集まった学生も参加しています。8月22日～24日に行われた、気仙沼市内の小中学生を対象にした学習支援ボランティアには、福岡教育大学生5名、奈良教育大学生4名、早稲田大学生5名と本学学生5名の総勢19名が参加しました。

今回は、小中学生への学習支援ボランティアだけではなく、21日に気仙沼大島でのフィールドワークを通して東日本大震災からの復興を考えるプログラムも実施しました。

最初に気仙沼大島の標高235mの亀山山頂に上がり、素晴らしい景色を見ました。当日は、青空が広がりリアス式海岸がきれいに見え、遠くには、金華山を見ることができました。次は、ヤマヨ水産を訪ね、



牡蠣の養殖の様子や津波に対して日頃から準備をしていたこと、牡蠣のいかだの再建にあたってボランティアの方々に助けをもらったことなど、震災当時のことや震災からの復興について貴重なお話をいただきました。また、船に乗せていただき、牡蠣の養殖について説明してもらいました。



その後、グループに分かれて大島の民家を訪ね、震災当時のことを聞きました。家に上げていただき、お茶やお菓子をごちそうになりながら思いのこもった話を聞かせていただきました。

夜は大島汽船の社長の白幡さんに、会社経営者としての立場からお話をいただきました。震災からの気仙沼と大島を結ぶ航路の復興について、大島への思いを聞かせていただきました。



震災からの気仙沼と大島を結ぶ航路の復興について、大島への思いを聞かせていただきました。

気仙沼学習ボランティアに参加して

福岡教育大学 三村夢佳さん

4日間のボランティアを通して、心から気仙沼という場所が好きになりました。初めて東北を訪れ、緊張していましたが、気仙沼、大島で出会った全ての人の人柄がとても温かく、初めて訪れたとは思いませんでした。これからも気仙沼・東北を応援し、今回学んだことを様々な人に発信できるように頑張りたいと思います。

1日目のかき湯通し体験では、震災当時の様子について話を聞くことができました。5年という年月が過ぎ、思い出したくない経験であると思いますが、私たち学生に丁寧に説明してくださり、当時の緊迫した状況が伝わってきました。私たちにた対する気遣いを感じられる場面も多くあり、本当にありがたいと思いました。苦しい状況を乗り越え、笑顔で現在を生きつらる夫婦の姿は、とても強く、優しさにあふれており、心が震えました。

また、大島で民宿を営んでいる女性に話をお聞きしたのですが、その女性も「ぜひ、またお会いしたい！」と感じる方でした。緊張している私たちの心を解きほぐすように、とても素敵な笑い声を響かせてくれる女性でした。こちらが質問してよいのか迷うようなことを聞いたときも、一つ一つ丁寧に答えてくれました。そして、最後には笑い飛ばして前向きさを感じさせてくれました。

フィールドワークと学習支援ボランティアという2つのプログラムによって、私の価値観・生き方など様々なことをよりよいものにしてくれたと思います。私は4年生なので、このボランティアに参加できるのは最初で最後になりましたが、来年、再来年ずっと続くように、私は今回の経験を後輩にしっかりと伝えたいと思います。



